

1. 学校図書室の充実と町に図書館をつくる施策を

第五次開成町総合計画における教育活動の充実の一つとして、「開成町子ども読書活動推進計画に基づき、朝読書などの読書活動の充実を図ります。」と示されている。そして「開成町子ども読書活動推進計画」には、「子どもたちの読書活動や読書活動への意欲を高める取り組みを組織的に行えるように、ボランティア団体との協働体制を推進するとともに、図書室や校内の読書環境を更に整えていきます。また、町内公立学校・園、子育て関連施設等の図書室・図書コーナーのネットワーク化を図るための検討、特にPCを使った図書管理システムの検討を進めます。」としている。

本年10月末現在、文命中学校の図書室蔵書数は、6,970冊だが、学校図書館図書標準（国の選定）では、整備目標数が12,160冊となっている。また、町内には図書館が整備されていない状況もある。

以上を踏まえて、町内の読書環境の充足のため、次の事項を問う。

- ① 児童・生徒のために町内公立小中高等学校の図書室資料等の交流は。
- ② 小中学校図書室の環境充実のために学校司書配置の拡充を。
- ③ 町内図書室ネットワークのためのPC図書管理システム構築は。
- ④ 町に図書館をつくることは。

2. 水防災に有効な「まるごとまちごとハザードマップ」の整備を

本年7月の西日本豪雨災害で109人が亡くなられた広島県では、この秋、県内各地で被災者の方を中心に聞き取り調査を行った結果として、避難情報が具体的な避難行動に結び付かず、逃げ遅れが被害を拡大したと断定した。

そこで、住民一人ひとりの先行的な防災行動を時系列でまとめ、具体的な避難行動がとれるようにした「マイタイムライン」の構築を国は奨励している。

また、本町では、浸水想定避難訓練を来年2月に予定しているが、「まるごとまちごとハザードマップ」を取り入れ、水防災の訓練を行うことは大変に有効であると考え、合わせて提案する。

「まるごとまちごとハザードマップ」とは、町のなかで生活している一人ひとりが、日頃から地域の水害の危険予測を実感できるようにするものである。居住地域をまるごとハザードマップと見立て、生活空間である“まちのなか”に水防災に関わる情報を24時間、誰もがわかるよう標識などで表示をして避難誘導につなげる取組みであり、国は、平成18年に「まるごとまちごとハザードマップ実施の手引き」を作成し、推進をしている。

- ① 「マイタイムライン」の導入を。
- ② 「まるごとまちごとハザードマップ」を整備する考えは。